

パイプオルガンに関する意見募集結果（詳細版）

○応募者概要

応募数：65名

松江市内：77%（50名/65名）

松江市外：20%（13名/65名）

不明：3%（2名/65名）

○回答内訳

パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い：98%（64名/65名）

パイプオルガンを撤去して新たなホールの活用策を検討した方が良い：2%（1名/65名）

※赤字：新たな活用方法案

整理番号	今後のパイプオルガンの取り扱いについて	選択理由・新たな活用方法の提案	ホールの利活用について
1	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	積極的に 学校単位の見学 を行う	—
2	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	豊かで様々な表情を持つ音色に心より圧倒され、感動しました。撤去してしまうにはあまりにも勿体無いです。活用法としては、 地元の吹奏楽部とのコラボや、Official髭男Dismなど有名アーティストのコラボ はどうでしょうか。 ライブで生配信 すれば、松江のこの素晴らしいパイプオルガンを知って頂く機会になると思います。	—
3	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンが設置されているホールは少ないとのことなので貴重だと思います。後世に残していくべき価値のあるものは守った方が良い。そういったものが 松江にあるということをもっとアピール して、 市民が親しめるような機会 がもっとあれば市民の理解も深まると思います。（私自身、今日初めて聞かせてもらいました。）子どもに聞かせてあげられたのも非常に良かったです。	小さい子どもがいるのでなかなかコンサート等に触れる機会が少ないので、親子で参加できるコンサートやイベント等がもっと増えるとありがたいです。子どもが気軽に音楽と関われるようなイベントがたくさんあればうれしいです。「0歳から入れるコンサート」はそういったイベントがあるとたまに情報をきいたことはありましたが、行ったことがありません。また機会を見て参加してみたいです。そういった情報を色んな所で発信してもらえると情報を見逃すことがなくなるので助かります。
4	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	保育園の行事など子供達にパイプオルガンがある事を松江市民に知ってもらう事 が必要だと思う	—
5	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	多くの子ども達、大人に 聴いてもらえる機会を持続ける事	個人のピアノコンクールでも合唱大会でもプラバホールにはこれでもかと言うくらい足を運びました。県外の大学ではパイプオルガンに触れる機会があり、それもあって島根へ戻ってからプラバホールのパイプオルガンにも勝手に親近感を持っています。☑ 子ども達の成長過程においてパイプオルガンの音は不要だとお考えでしょうか？どれだけ貴重な物かご存知ないでしょうか？これまでも沢山のイベントを実施され、多くの子ども達大人達に素敵な音色を届けてくれました。☑ それはどこでも出来る事ではなく、とても貴重な事であり『撤去して新たな活用策』なんてとんでもない事です。☑ これまでプラバホールに携わって来られた方々、パイプオルガンに携わって来られた方々の思いや経験や知識を無駄にされるおつもりでしょうか。私は絶対に許しません。
6	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	そもそも撤去という選択肢があり得ません。そもそもパイプオルガンを含めた大ホールではないのですか。大きな、近隣にはない特色であるオルガンを撤去せず、きちんとメンテナンスしていただきたい。 地元テレビ局やラジオ局と連携して、オルガン演奏を配信 する番組を作られたり、 年に数回オルガン解放デーや体験イベントを行う などし、市民が音を聴く、見る事が出来るようにされてはどうか。無料でなくても、 ワンコイン程度の体験会を、0歳児からのコンサート以外にも設定して欲しい 。せっかく専属オルガニストがいるのに活用が不十分です。	学校や市民の音楽活動を支援する、演奏の場を作る試みをして欲しい。☑ 団体の自主的なものばかり目につきます。プロ演奏家ばかりではない企画を増やして欲しいです。プラバ大ホールだけではなく、ロビー等の活用ももっと進めるべきではないか。
7	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	今回のポイントは点検費用と維持費という、コストだと認識しています。つまり財源が確保できれば良いということで、市の一般財源にこだわらず 市民からの募金 、そして クラウドファンディングを活用した全国からの寄付を募る のが良いと思います。特に、国内最大級の大きさや、利用団体のアンケートからは継続してほしいという声が多数という状況を踏まえると、クラウドファンディングとの相性がいいと思います。一財だけの維持については、今回に限らず毎回点検のたびに問題になると思うので反対です。	上記でクラウドファンディングと言いましたが、 クラファンで獲得した資金で点検をするだけでなく、 ・ ゲストによる演奏会の開催 ・ 市民とのふれあい事業の開催 など点検後の企画をセットで提示すると良いのではないのでしょうか。 クラウドファンディングは見せ方が勝負ですので、きちんと費用を掛けて戦略的なクラウドファンディングを実施することを期待しています。

8	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	<p>中四国の公共ホールに唯一設置されているパイプオルガンはプラバホールの最大の特徴であり、ホールの活用も特色を生かす形で進めるべきです。</p> <p>撤去するという選択肢自体、本当に現実的なのか疑問です。撤去するにも多額の費用がかかるとのことなので、その費用をメンテナンスに当てるべきだと思います。撤去したとして大編成のオーケストラが利用できるとありますが、それによりホールの稼働率が上がるとは思えませんし、パイプオルガンを利用した講演やイベントが減るので、マイナスの側面が大きいのと思われます。</p> <p>毎年実施されて入れている「オルガンDEリラックス」や「0歳から入れるコンサート」には息子と一緒に聴きに行き、親子でとても楽しめたのが良い思い出です。米内山さんという、実力ある演奏家の存在はとても貴重です！オルガンはメンテナンスを実施し存続させるべきです。</p> <p>35年間、オーバーホールを行っていないことが問題です。単年度で予算を計上するのではなく、積み立てておけば負担も少なくなるのでは無いですか？（オーバーホールの計画自体あったのか疑問です）費用が問題であれば、市民からの寄付やふるさと納税、クラウドファンディングなど活用し、プラバホールの改修工期に合わせてオーバーホールを実施するチャンスです。</p>	<p>パイプオルガンの演奏を聴いた人は少ないと思います。パイプオルガンの活用を考えたときに、そのことを逆手に取り、県外からの観光ツアーにオルガンのコンサートを含めた旅行パックを企画してみてもどうか。また、クルーズ船が寄港した際にウェルカムコンサートとして使用してはどうか？</p> <p>正しく、松江にしかない魅力をお届けできると思います。</p>
9	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	<p>パイプオルガンがなくなってただの音楽ホールになってしまえば、プラバホール自体必要ないのではないか。（県民会館でもいいのでは？）</p> <p>中四国で唯一ということをもっとアピールしてはどうか。</p>	—
10	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	<p>地方の一都市が文化的価値のある特徴を備えているというのはとても貴重なことだと思うので、30年以上ホールのシンボルとして存在感を放つパイプオルガンを今さら撤去するメリットがわかりません。</p> <p>市内の全小(中)学校のカリキュラムに必ず1回はオルガン体験を組み込むとか、松江市又はプラバホール主催のオルガンコンクールなどももし出来たら盛り上がるのではと思います。</p>	<p>プラバホールはオルガンの佇まいを含めとても美しいホールなので、撮影等で使ってもらう(貸し出す)機会をもっと増えるといいのでは？目にする機会が増えれば初めて来館される方の数居も低くなるのではと思います。</p>
11	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンが無ければプラバホールではありません。	—
12	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	現在の取り組みを継続してほしい	—
13	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	松江市にとってかけがえのない財産だと思います。もっとたくさんの人にパイプオルガンの音色の魅力を知って欲しいです。	<p>パイプオルガンを使った様々な企画(0歳から入れるコンサートや地元音楽家との共演、オルガン探検隊など)、これからも継続していただきたいです。☑</p> <p>パイプオルガンがある素晴らしい響きのプラバホールだからこそ出来る身近な音体験、大変貴重なものだと思います。あの壮大な響きは唯一無二のものです。生の音を聴く機会を学校教育にももっと取り入れるべきだと思います。☑</p> <p>芸術文化や教育を大切にしたい市ならば、パイプオルガンの撤去はもちろん、楽器のメンテナンスを後回しにすることも考えられないし、自分が生まれ育った松江市が古く価値のあるものを(例え維持費がかかるとしても)壊して新しいものを作る姿は見たくありません。☑</p> <p>もっと実際にプラバホールを利用している演奏家の声を聞いていただきたいです。☑</p> <p>☑</p> <p>私はパイプオルガンがあるプラバホールを、そしてその素晴らしいホールを持つ国際文化観光都市・松江を誇りに思っています。☑</p>
14	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	松江の宝だと思う。引き続き パイプオルガンのある音楽ホールとして宣伝・活用 してほしい。	パイプオルガンコンサートの開催回数を増やしてほしい。月一回とか、各週とか。親子連れなど、気軽に参加できるような公演であるとなお嬉しい。コロナ禍でささくれた心を癒してほしい。
15	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	定期的（土日など時間帯を区切って）にパイプオルガン内部の見学会の開催	パイプオルガンの音の出る仕組みや、構造、歴史などを学べる講座、大人から子供まで、幅広い年代に会ったコンサートなどを開催していただきたい。
16	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	もっと使ったらいい と思う。	せっかくパイプオルガンがあるのに、パイプオルガンを使った演奏会が少ない気がする。もっと活用したほうがいいと思う。
17	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンを有するこのような素晴らしい音響のホールは全国的にも誇るべきです。パイプオルガンの音色に触れられる事は非常に貴重であり、音楽の歴史においても紀元前から受け継がれてきた楽器を今現在に体験する事ができるというのは本当に素晴らしいことです。バッハの奏でた旋律を生で聴けるのです。教科書に載っている楽器を体験できるのです。是非、オーバーホールを行っていただき、今後も 幼児期から大人まで生の音に触れられる機会を作ってください と思います。	<p>今現在、0歳から入れるコンサートを実施されています。☑</p> <p>小学校、中学校でも在学時に1度はホールでの演奏を聴く機会を行事として組み込んでいただきたい。☑</p> <p>生で聴く体験は物凄く印象に残るものです。せっかくの素晴らしい施設をもっと体験できるプログラムを作っていただきたいと思います。</p>

18	<p>パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。</p> <p>1. パイプオルガンを使用したコンサートをもっと企画して欲しいと思います。例えば国際観光文化都市を意識し、観光振興、国際交流課とももっとタイアップして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際バロック祭り（観光振興にもなるのでは？バロックフェスでまちづくりをしていく） ・国際室内楽フェスティバル（観光振興にもなるのでは） ・国内のオルガニスト養成課程の学生の利用サポート（例えば、長期休暇中の練習場所や研修会、学園祭や卒業コンサートなどの招致）⇔松江の学生とも交流 ・山陰フィルハーモニーのコンサートでは、オルガン付きを披露する。 <p>2. パイプオルガンを使った市民の音楽参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラバ〇〇記念事業として、パイプオルガンを使った室内楽、ご当地オペラや子供のための〇〇など、作品を依頼して、松江市で実演していく。 ・第九のような、市民参加型パイプオルガンバロックフェスを企画して、細く長く続けていく。 ・地元の音楽家とアンサンブルを組む企画をする。 	<p>1. 平成30年度の専門家会議の専門家の偏りについて このたびの意見書は、生涯学習課にてとりまとめとなっていますが、音楽・文化に対する愛情が非常に低く感じました。市HPの観光振興部 観光文化課様のサイトにも関連施設として「松江市総合文化センター（プラバホール）」が記載されています。プラバホールのパイプオルガンは、利活用の検討も必要ですが、その希少性や国際文化観光都市松江に設置されていることから、文化価値の側面からの検討もあって当然だと感じました。是非今後の検討には、文化を愛する専門家も招集願います。きっと、お金がない中でどうやって文化を守ってきたか、ということについて沢山の例をご存じだと期待します。生涯学習課と観光文化課の双方の力を合わせる時だと思えます。</p> <p>2. 組織について ①エンターテイメント性の重点化 松江音楽協会様が、現在管理者となっていますが、今後利活用を考えるならエンターテイメント性を重視した外部の力を求めても良いのではないのでしょうか。例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民や専門家で作るパイプオルガンを使用したコンサートを企画しても良いのではないのでしょうか。 ・音楽文化を盛り立てる会（守る会ではなく）などを組織し、市民と松江音楽協会が協働し、文化音楽の企画、あり方などを検討していく。例えば、今のオルガン学園卒業生リビエーノさん方にも参加していただく。 ・別紙①の1や2の回答のものを企画していく。 <p>②プラバ所属のアマチュア市民音楽団やプラバ所属団体の設立 現在、この問題は音楽愛好家の中で少し物議がありますが、過去の検討会でパイプオルガンの利用者や音楽愛好家の意見が見えてこなかったことは、音楽愛好家がプラバホールの運営には関わっていないからだと思いました。そこで松江音楽協会様には「味方」が必要だと思います。つまり、音楽を通じて、例えばプラバ専属のオルガニストさんや山陰フィルハーモニーさんなどを中心に、パイプオルガンを使う立場、音楽文化を守り盛り上げる立場の団体が必要だと思います。そして、管理者と楽団の協力、プラバホールを運営すると、これまで以上に音楽愛にあふれた運営ができ、いろんな課題に多くの人に関わっていただけると思います。</p> <p>3. 予算の獲得について 設置時には、維持コストが発生することは誰でも予想できたと思います。維持にお金がかかり、維持できなさそうだから撤去というのは、設置後30年程度で至る結論としては、あまりにも単純すぎると思えます。個人的には、「安っぽい、ださい」として表現できません。国際文化観光都市の看板を掲げているので、もっと</p> <p>「美しい事」「素敵なこと」「喜びあふれるまち」にこだわってもいいのではないのでしょうか。お金はないから、みんなで協力して、何年もかかったとか、十分美しいストーリーです、誇れるまちです。その間じっくり楽しめばいいのではないのでしょうか。そのための予算の組み方や予算ルールにも工夫が必要であれば、見直しが必要でしょう。</p> <p>経費でピンチであれば、プランB、、、と次々に考え、あがきにあがきことが文化を支える力だと思えます。維持のお金が予算で取れないから撤去とは、あまりにも単純すぎて、そのがっかり感・松江に希望を持ってない気持ちは、計り知れないと思います。平成30年の専門家会議でも撤去に伴う課題は示されていますが、デメリットは示されていません。</p> <p>単年度ではなく、毎年予算化して、少しずつオーバーホールしていく。担当課だけでなく課をまたいでも予算化する。予算化することに、これまで以上の工夫、協力体制、叡知、を集めて取り組んでいただきたいです。そのために、2組織について、特に「プラバホールの音楽の味方づくり」の観点から、強く必要だと思います。</p> <p>4.オーバーホールの事業化 パイプオルガンのオーバーホールは、その携わる方々にも貴重な機会だと思われます。何かそのあたりと協力しながら、職人さんの研修の機会ともなるように考えてもいいのではないのでしょうか。</p> <p>また、オーバーホールの見積もり内容が分かりませんが、数か月にわたり、チームで人が滞在するのであれば、おもてなし心で迎え、泊まる場所などのお世話など、温かくむかえたりして、経費を削減することはできるのでは？丸投げオーバーホールでなく、市民参加型のオーバーホールの検討は如何でしょうか。オーバーホールの見積もり内容の見直し、経費削減箇所可能性の検討、友好的参加企業や団体の募集など、進めてみるのは如何でしょうか。このような機会は文化を維持する他の側面を直接見て体験でき、貴重です。将来の文化振興を担う人材の養成にもなると思えます。</p> <p>5.啓発活動・パイプオルガン維持基金の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付を募る（水郷際方式など）、 ・パイプオルガン維持基金みたいなを作り、コンサートチケットには少し上乗せする。（PRのため） ・SNS、クラウドファンディング、寄付アプリ（スマホゲーム）などの活用 <p>6.寄付、支援のお願い 先日市長様が、「松江城に関する探し物」（記憶があいまいですが）のyou tube を世界に向けて作成されているのをニュースで見ました。「国際文化観光都市から</p>
----	---	---

			<p>パイプオルガン修繕費助けてのお願い」、のようなyoutubeを作れば、また新たな希望や動きが発生するのでは、と思います。</p> <p>7.音楽でまちづくり 音楽でまちづくりを進めるだけの、文化、歴史、人材、ホール、設備などいろいろあげれば沢山財産・宝物はありそうです。今問題となっているのはオーバーホールの予算ですが、それ以外は何でもあり、今ある宝物を大切に「松江らしさ」をさらに作り上げていきたいです。</p> <p>8. 利用・予約について ①リハーサルや練習会など、利用料の設定を一時間ごとにして、利用者が使いやすい価格を設定する。または、予約時間のシェアが可能となるような工夫をする。 ②冷暖房が必要ない時期などに、利用促進キャンペーンなどを実施してほしいです。利用料が格安とか、調律前のピアノだったら、無料とか格安に借りれるなど。</p> <p>9.アンケート中の「パイプオルガン撤去の場合の利活用」の質問設置について 設置後一回のオーバーホールも乗り越えられなかった環境において、これ以上に盛んな利活用の方法を考えるというのは、話の筋が通らなく同列に並んでいることが理解できません。大きなコンサート実施がどれだけの力があるのか知らない人の意見だと思います。音楽家や文化人方は今ある環境を最大限プラスになるようにパフォーマンスをします。大きな舞台がないからできない、ということにはなりません。音楽家や音楽愛好家は、いまある環境や設備の中で、一番よい・もっと楽しいパフォーマンスを考える人達、文化の源、新しいものを作り出す人達です。</p> <p>○最後に このたびの「撤去」という言葉が、ただの「施設設置物」として捉えられていない、悲しい気持ち、がっかり、気持ちが冷えるなど、物議がある中多くの人は「ぎょっ」としました。市民に相談する以前に、その相談相手にもならないほど信用されていないのか、とも感じ取れました。「撤去」という言葉ではなく、市民目線の言葉を使っていたきたいと思います。</p> <p>これから新庁舎も建設され、新時代の様々な影響をうけて時代は進み、既存の価値観や方法からは少し離れて、少しでも良いので新しい考え方ややり方を実行していければならない時だと思います。ルールの変更が必要ならば、そのように対応できるように進めましょう。</p> <p>まとまりのない文章になりましたが、いくつかキーワードはお伝えできたと思います。是非、市民を信じて明るい松江の未来のために、みんなで一緒に考えましょう。</p>
19	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンは、ホールと一体のものなので、一度撤去したら（おそらく）二度と復旧は出来ません。中四国でここにしかないパイプオルガンの音色を聴けることは一生の宝といってもいいです。自分に興味がないあるいは費用対効果だけで見られてしまうと、文明はともかく、文化は育ちません。都会と比べると周回遅れ（それも2周以上）の文化度の松江において、東京や大阪は仕方ないにしても、広島や岡山にもない公共のパイプオルガンを補修してでも使っていくことが松江市民としての責務だと思っています。	<p>上定市長は、自身の文化・観光に関する政策の中で、国際文化観光都市や地域の文化・伝統に関して積極的だと感じています。そのような市長のもとで、パイプオルガンを利用こそすれ、撤去はあり得ないのではないのでしょうか。現状でホール・オルガンの利用が足りないのであれば、例えば『ラフォルジュルネ松江』などを毎年の様に開催して、クラシックを世界中から聴きに来るお客さんでいっぱいにするくらいのことは考えて欲しいです（『ラフォルジュルネ』は東京だけでなく、地方都市である、金沢や新潟・鳥栖・大津でも開催されています。）。☒</p> <p>ワークショップでも様々な意見が出ていましたが、もっと一般の人にパイプオルガンの存在から知ってもらいたいです。松江市の広報での宣伝、昼に流れる音楽をパイプオルガンの音色にする、夕方にパイプオルガンの音色を響かせる、などなど、豊富なブレインと資金ををお持ちの市長に是非とも実行していただきたいです。</p>
20	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	児童や一般市民の方に音楽への興味を持ってもらうために活用してほしい。一度撤去したら二度と設置できないと思う。	—
21	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンがあることの価値を松江市（行政）そのものがもっと自覚した方が良いですね。全国の音楽ファンはブラバホールがパイプオルガン付きの良いホールだと知っていますよ。	<p>小学校教員が音楽に対して理解が足りていない現状があると思います。☒</p> <p>小学校については、音楽教員の専門化を進め、定時内での研鑽もできるように育成もすべきだと思います。☒</p> <p>小学校時代に子供が音楽を嫌いになったらその後取り戻すのはハードルがあります。</p>
22	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	せっかくパイプオルガンを設置したのなら、もっとアピールし、活用して松江市の文化芸術振興に役立てたら良いと思う。もっと子どもたちが気軽にブラバホールを利用できたり、パイプオルガンに触れることができるような取り組みを考えて欲しい。それが今後もあまり案が出ないようなら、撤去も仕方ない。	—
23	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	定期的な演奏会。パイプオルガン教室。	—
24	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンはとても貴重です。	駐車場が少なくイベント時に止められないことがありました。
25	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンがある事で演奏できる曲もあり、また、プロの演奏家も来てくれている。活用すべきと思うが、予算の限られた中であれば、今回の改修に合わせなくても、年次的にメンテナンスをすれば良いのでは無いか？	<p>ブラバホールはあくまで音楽ホールであるので、そこに特化したホールであってほしい。広く市民に…と言っても、利用するのはやはりコアな団体なので、特に利用する者の意見は尊重してほしい。☒</p> <p>音楽ホールとしての用途がブレない範囲での利用をさばうします。☒</p> <p>ソフト面で演奏会等に足を運んでくれる市民を増やすには、宣伝にももっと力を入れるべき。敷地も限られた中で、ハード面で充実させるのは難しいかと。気軽に入れるカフェ等で集客が来ると、人の流れも増えるかもしれません。</p>

26	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	文化は単にお金に換算できるものではないし、プラバホールに合わせたパイプオルガンは松江市の宝です。また、これとともに音楽に親しんだ人たちの大きなよりどころです。今後も活用すべきです。	一年に一度か、二年に一度、いや10年に一度でも超大物音楽家や演劇団の公演をして、県外からでもどうしても行きたいと、チケットが即完売になるようなイベントで、県外の人の感想や、演者の感想を市民に知ってもらおうのも一つと思います。☒ また、松江市でのイベントごと、表彰式、お祝い事などで活用し、「松江市でのイベントはプラバホールだね」というくらいに活用と情報を広げてほしいです。ただ、収容人数が少ないので、無料のイベントにおいてはネットのライブ配信を活用し、画面越しにでもプラバホールの魅力を知ってもらい、「実際のプラバホールの音をきいてみたい!」と思わせてほしいです。例えば、パイプオルガンの演奏であったり、毎年行われている島根映画祭の塾生の映画発表。小中高の音楽コンクールなど。☒ また、小中学校の生徒児童をプロの演奏会に招待し、原体験としてプラバの魅力を刷り込むのもありだと思います。
27	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	とても貴重なものだと思います。 もっと聞いてもらえる機会をふやしていけるといいですね。 行事のついでに、とか 町内の会で、とか 音楽ずきの人でなくても見学と鑑賞ができる とよいと思います。	—
28	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	—	—
29	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	<p>パイプオルガンと一緒に合唱 パイプオルガンを使って、市民参加型のクリスマスコンサート などをしたいです。</p> <p>1. パイプオルガンを使用したコンサートをもっと企画して欲しいと思います。例えば国際観光文化都市を意識し、観光振興、国際交流課とももっとタイアップして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際バロック祭り（観光振興にもなるのでは？バロックフェスでまちづくりをしていく） ・国際室内楽フェスティバル（観光振興にもなるのでは） ・国内のオルガニスト養成課程の学生の利用サポート（例えば、長期休暇中の練習場所や研修会、学園祭や卒業コンサートなどの招致）⇨松江の学生とも交流 <p>2. パイプオルガンを使った市民の音楽参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラバ〇〇記念事業として、パイプオルガンを使った室内楽、ご当地オペラや子供のための〇〇など、作品を依頼して、松江市で実演していく。 ・第九のような、市民参加型パイプオルガンバロックフェスを企画して、細く長く続けていく。 ・地元の音楽家とアンサンブルを組む企画をする。 <p>3. 利用・予約のシェアや短時間使用 リハーサルや練習会など、利用料の設定を一時間ごとにして、利用者が使いやすい価格を設定する。または、予約時間のシェアが可能となるような工夫をする。</p>	<p>1. 平成30年度の専門家会議の専門家の偏りについて このたびの意見書は、生涯学習課にてとりまとめとなっていますが、音楽・文化に対する愛情が非常に低く感じました。市HPの観光振興部 観光文化課様のサイトにも関連施設として「松江市総合文化センター（プラバホール）」が記載されています。プラバホールのパイプオルガンは、利活用の検討も必要ですが、その希少性や国際文化観光都市松江に設置されていることから、文化価値の側面からの検討もあって当然だと感じました。是非今後の検討には、文化を愛する専門家も招集願います。きっと、お金がない中でどうやって文化を守ってきたか、ということについて沢山の例をご存じだと期待します。生涯学習課と観光文化課の双方の力を合わせる時だと思っています。</p> <p>2. 組織について ①エンターテイメント性の重点化 松江音楽協会様が、現在管理者となっていますが、今後利活用を考えるならエンターテイメント性を重視した外部の力を求めても良いのではないのでしょうか。例えば、 ・市民や専門家で作るパイプオルガンを使用したコンサートを企画しても良いのではないのでしょうか。 ・音楽文化を盛り立てる会（守る会ではなく）などを組織し、市民と松江音楽協会が協働し、文化音楽の企画、あり方などを検討していく。例えば、今のオルガン学園卒業生リリピエーノさん方にも参加していただいて。 ・別紙①の1や2の回答のものを企画していく。</p> <p>②プラバ所属のアマチュア市民音楽団やプラバ所属団体の設立 現在、この問題は音楽愛好家の中で少し物議がありますが、過去の検討会でパイプオルガンの利用者や音楽愛好家の意見が見えてこなかったことは、音楽愛好家がプラバホールの運営には関わっていないからだと思います。そこで松江音楽協会様には「味方」が必要だと思います。つまり、音楽を通じて、例えばプラバ専属のオルガニストさんを中心に、パイプオルガンを使う立場、音楽文化を守り盛り上げる立場の団体が必要だと思います。そして、管理者と楽団の協力で、プラバホールを運営すると、これまで以上に音楽愛にあふれた運営ができ、いろんな課題に多くの人に関わっていけると思います。</p> <p>3. 予算の獲得について 設置時には、維持コストが発生することは誰でも予想できたと思います。維持にお金がかかり、維持できなさそうだから撤去というのは、あまりにも単純すぎると思います。個人的には、「安っぽい、ださい」として表現できません。国際文化観光都市の看板を掲げているので、もっと「美しい事」「素敵なこと」「喜びあふれるまち」にこだわってもいいのではないのでしょうか。お金はないから、みんなで協力して、何年もかかったとか、十分美しいストーリーです、誇れるまちです。その間じっくり楽しめばいいのではないのでしょうか。そのための予算の組み方や予算ルールにも工夫が必要であれば、見直しが必要でしょう。</p> <p>文化は人間の営みの叡知のたまものと未来への希望であるのであれば、このようなピンチな時プランBを考えることが文化を支える力だと思います。維持のお金が予算で取れないから撤去とは、あまりにも単純すぎて、そのがっかり感・松江に希望を持ってない気持ちは、計り知れないと思います。平成30年の専門家会議でも撤去に伴う課題は示されていますが、デメリットは示されていません。</p> <p>単年度ではなく、毎年予算化して、少しずつオーバーホールしていく。担当課だけでなく課をまたいで予算化する。予算化することに、これまで以上の工夫、協力体制、叡知、を集めて取り組んでいただきたいです。そのために、2組織について、特に「プラバホールの音楽の味方づくり」の観点から、強く必要だと思います。</p> <p>4.オーバーホールの事業化 パイプオルガンのオーバーホールは、その携わる方々にも貴重な機会だと思われます。何かそのあたりと協力しながら、職人さんの研修の機会ともなるように考えてもいいのではないのでしょうか。</p> <p>また、オーバーホールの見積もり内容が分かりませんが、数ヶ月にわたり、チームで人が滞在するのであれば、おもてなし心で迎え、泊まる場所などのお世話など、温かくむかえたりして、経費を削減することはできるのでは？丸投げオーバーホールでなく、市民参加型のオーバーホールの検討は如何でしょうか。このような機会は文化を維</p>

			<p>持する他の側面を直接見て体験でき、貴重です。将来の文化振興を担う人材の養成にもなると思います。</p> <p>5.啓発活動・パイプオルガン維持基金の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付を募る（水郷際方式など）、 ・パイプオルガン維持基金みたいなのを作り、コンサートチケットには少し上乘せする。（PRのため） ・SNS、クラウドファンディング、寄付アプリ（スマホゲーム）などの活用 <p>6.寄付、支援のお願い</p> <p>先日市長様が、「松江城に関する探し物」（記憶があいまいですが）のyou tube を世界に向けて作成されているのをニュースで見ました。「国際文化観光都市からパイプオルガン修繕費助けてのお願い」、のようなyoutubeを作れば、また新たな希望や動きが発生するのでは、と思います。</p> <p>○最後に</p> <p>このたびの「撤去」という言葉が、ただの「施設設置物」として捉えられていない悲しい気持ち、がっかり、気持ちが冷えるなど、物議がある中多くの人は「ぎょっ」としました。市民に相談する以前に、その相談相手にもならないほど信用されていないのか、とも感じ取れました。「撤去」という言葉ではなく、市民目線の言葉を使っていたきたいと思います。</p> <p>これから新庁舎も建設され、新時代のような影響を受けて時代は進み、既存の価値観や方法からは少し離れて、少しでも良いので新しい考え方、やり方を実行していければならない時だと思います。ルールの変更が必要ならば、そのように対応できるように進めましょう。</p> <p>まとまりのない文章になりましたが、いくつかキーワードはお示ししたと思います。是非、市民を信じて明るい松江の未来のために、みんなで一緒に考えましょう。</p>
30	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	小規模オルガンコンサートの機会を増やす	音楽に限らず、演劇・ミュージカル・落語・朗読会など、小規模イベントをどんどんするとよい。☒ ☒
31	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	オーバーホールまで必要かどうかかわからないが、当初の大ホールの設計方針がパイプオルガンを前提としているのであれば、パイプオルガンの撤去はこのホールそのものの否定になります。耐震改修の範囲内であればオルガン存続、改築であればその時に検討するのが妥当でしょう。40年も経たないのにオロオロしない方が良いと思いますよ。	—
32	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	貴重なものなので存続してほしい。 Hammondオルガンなどに比べて分離の良さに驚いた。 ヘンデルやジャズなど聴いてみたい。	—
33	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	何でも合理的にすると文化が成り立たない。良い施設は後にまで残すべきだ。	長く住んでるのが初めて音色を生で聞いた。もっと多くの人に楽しめる企画などを考えてもらいたい。 例えば ヒゲダン、ジンジャー とのコラボ。
34	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	そこにあるだけで 力 喜び 安心	パイプオルガンがあるホール 松江市民の誇りです。 古くなったからといって、趣きのある建物もどんどん壊されています。もうとり返しがつきません。頭をしばって、子供達、学生、若い人にどんどんその音、その内部を知らせて下さい。私達年配者もその機会があれば、どんどん参加したい。
35	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	オルガン単体での演奏会や合唱、管弦楽曲にオルガンが入っている曲の演奏など、いくらでも活用法はある。せっかく根付いたパイプオルガンの存在、そしてそれを活用した各種演奏会の火を絶やすべきではない。	大ホールのステージをもう少し広くできれば、演目やできることの可能性も広がると思う。ただ、客席数がへったり、音響上の問題があるので、可能性としては低いと思うが。 可能であれば、中ホール規模のホールがもう一つあっても良いと思う。ゲネプロの前に、本番を想定した練習を中ホールで行えるので。現在の小ホールは、本番を想定した出入りなどの確認をすることは難しいので。
36	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	オルガンは本格的なコンサートホールであることの証、云わばホールの顔である。このことを理解せず取り払えば、ホールの価値は半減してしまい、取り返しはつかない。開館以来、オルガンを使った企画は多岐にわたっており、他のホールに比べて全く遜色のない活動をしている。開館時とは世代も変わってきている。 オーバーホールの機会を逃さず、様々なイベントを組み、オルガン周知を計って欲しい。また、オルガン学園修了者が更なる研鑽を積める環境と制度を作れば、学校も含め、さまざまな地域活動においてオルガンを利用しやすくなると思う。	—
37	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	プラバホールのシンボルであるパイプオルガンなので、定期的なオーバーホールをきちんとして、もっと活用すべきだと思う。私の所属するコーラスでは、毎回のコンサートで、パイプオルガンとの共演をして、皆様に喜んでいただいています。 もっと身近にパイプオルガンを聞く機会を持てるような、ワンコインの小さなコンサートなど企画してほしいです。	プラバホールの欠点は、駐車場の問題だと思います。毎日ではないけれど、必要な時は数百台必要になる駐車場を常時自前で確保するのは、無理だと思うので、近隣の駐車場を持つ会社などで、協力してもらえる所を増やす努力をしてみれば、どうですか？

38	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	国際文化都市松江市の誇れる宝である。パイプオルガンの荘厳な音色と響きはプラバホールには欠かせない。	パイプオルガンの伴奏による混声合唱を定期的に体験し、荘厳な響きと音楽性に毎回感動している。☑ 市内の子供たちにもこの感動を体験して欲しい。学校の授業の一環としてオルガンの演奏を鑑賞し、その伴奏で歌う機会を作るように取り組んでもらいたい。☑ ☑ パイプオルガンのオーバーホールの絶好の機会である2年間の改修期間を生かして良い音を維持していただきたい。☑ 撤去費用も高額であり、差額費用をクラウドファンディング等を活用して是非ともオーバーホールを行うべきである。☑ ☑
39	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンを聴く、見る機会として、プラバにすばらしいパイプオルガンがあることはすばらしい。子供達の未来のために、そして私達松江で長く暮らしている者のために、パイプオルガンをずっとききたい。 パイプオルガンのないプラバホールは考えられません。	大きな災害や危機（コロナetc.）ある度に、音楽や美術が人の心に必要なものだと再認識します。 音楽の拠点としてプラバのパイプオルガン ずっと聴きたい。
40	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	ニュース位でチラッと聞いた位でしたが、今度初めてホールで聞きました。音のひびきが耳にひびいて良かったです。こんなに音のひびきが良いのなら、くにびき大橋から1日1回でも大橋川へ松江の曲などがしてほしい。	—
41	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	中四国地方唯一のパイプオルガンであるから	—
42	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンは松江市の貴重な文化芸術の財産です、今、これほどの素晴らしいオルガンを作る事が出来る技術者は少ないと思います、撤去すれば2度と作れません。子供達が身近にオルガンを触れる機会をもっと増やすべきです、学校単位で校外学習を実施するなど。	プラバ小ホールを利用しますが、高齢者や障害者は、利用できない、何故ならバリアフリーでは無い、半地下の構造で長い階段しかない。 エレベーターもエスカレーターも無い、又、いざという時の避難経路が無い、上に上がるポール梯子の様なものが庭にあるが、体力のある若者しか昇ることは困難、せいぜい30才位までしか登れない。 市の施設でこれ程、危険な設計は無い。
43	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	中四国地方唯一のパイプオルガンであること。長岡先生がドイツに留学されて松江にパイプオルガンをと熱望され実現したことを知る者の一人であること。設置後たゆまぬ努力努力でパイプオルガンを弾いてきて下さって音色がとても良くなって来ていること。演奏会数もさることながら良い音色は一朝一夕にはできません。松江の誇るべき財産だと思います。 活用方法の提案としては、足立美術館、県立美術館、今井美術館などのパステアにパイプオルガンの演奏を入れる。月一度、あるいは決まった時間にいけばオルガンの演奏が聴けるようになっているといい。	図書館や小ホール、大会議室、会議室を頻繁に利用しています。 とても利用しやすいです。 大ホールでの演奏会、パイプオルガンの存在は市の文化レベルを高くするものと思います。 音楽振興にかかわって発信をしてくださる皆様に感謝です。
44	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	あの荘厳な音色を身近で大きくことができるのは、大変幸せなことです。オーバーホールしてでも活用して下さい。	—
45	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	中四国の音楽ホールの中で、パイプオルガンが設置されているのはプラバホールだけです。 今年、6月27日には広島交響楽団の定期演奏会がプラバホールで催され、サンサーンスの交響曲-第3番「オルガン」が演奏されました。日本では、超有名な指揮者、オルガニストの演奏という事で、東京から複数の音楽評論家が聴きに来られていました。松江市民にとっては、東京でも注目されるコンサートが地元で聴けるという素晴らしい、気持ちの良い、ひと時を共有することができました。また、10月17日には、「森麻季&鈴木優人デュオコンサート」が催され、バロック音楽では第一人者として活躍されている鈴木氏がパイプオルガンを演奏される予定です。このコンサートも東京にいても、なかなか聴くチャンスがない内容です。これも、プラバホールにパイプオルガンがあり、専属のオルガニストがおられて、常に、日本の著名なオルガニストに対応できる状態に整備しているからこそ、と思います。パイプオルガンのオーバーホールは必要だと考えます。	—
46	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	所有する団体が少ないので、松江市の文化（音楽）として保有した方が良い	1)各種音楽団体に出来るだけ開放して（学校等）活用してほしい 2)イベントの前に活用すると良いと思います
47	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	—	幼稚園児、小・中学生に音楽の教科の一つとしてとりあげて、このすばらしい音色を将来にわたり残していただきたい。
48	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	子ども達にたいけんを沢山させることは将来にわたって維持するうえでの担い手づくりにもなる。維持にきふを募るのはどうか。近隣にないことをもっと宣伝すべき。オルガニストの育成も力を入れるべき。国際交流は文化から、あえて融和のむずかしそうな国から演奏者をよび交流することも考えるとよい。近くの韓国、中国からどうか。	ぜひ、海外からの演奏者を招聘し、文化振興をはかるとともに、国際交流を進めて欲しい。文化交流が、相互理解、国際平和にもっとも効果的であり、そういったところに投資すべきである。

49	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	もっとたくさんの人にパイプオルガンの音色を聴いて欲しいから	—
50	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	プラバホールを、演奏会のお手伝いでよく利用しています。パイプオルガンがあることで、ほかのホールや会場にはない視覚的魅力があると思います。残念ながら音色を聞いたことがないので、松江市外の子供たちにも触れる機会をいただけると嬉しいです。(もちろん市民にも…！)	音楽会でよく利用させていただいています。職員の方にいつも良くいただいています。ありがとうございます。
51	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	専属奏者以外のパイプオルガンの演奏会を増やす	維持にお金がかかって大変なのはわかるけど、 <input checked="" type="checkbox"/> 松江の財産を撤去とかありません。 <input checked="" type="checkbox"/> コロナ禍だからこそ、遠くにでかけなくても、オルガンの音色や、曲を聴くことができ、貴重な機会が失われるのも困ります。今年の広島交響楽団の定期もなかなか聞くことのできないオルガンの曲だったから、ほぼ満員だったように思えます。 <input checked="" type="checkbox"/> ただ、改善するなら、もっと中央からプロの奏者を呼んでいただき、オルガンを通じての演奏会や、企画をやってくると、楽しみが増えます。題名のない音楽会のロケやるとか。
52	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	オルガン体験講座を受講したが、たいへん素晴らしい内容だった。今後も、市外からでも参加できる様々な講座や演奏会を開いていただきたい。	松江市民の方に広く体験してもらってパイプオルガンの良さを伝えるとともに、市外へも情報発信して「松江にはプラバホールがある、パイプオルガンがある」ということを売りにしてほしい。市内学生向けの体験授業は、さらに実施率を上げてもらいたい。幼い時であればあるほど良いし、繰り返し体験すべき素晴らしいものであると思う。市外へも、実施可能なプログラムを通知すれば、遠足(社会科見学)に取り入れて訪問したいという学校もあるのではないかな。市外の学校に勤務しているが、近年プラバホールからそのような資料をいただいたことはないように思うし、訪問実績もない。社会科見学で松江へ行くことはあるが、松江城やテレビ局がほとんど。
53	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	地方都市において、パイプオルガンの演奏を気軽に聴くことができる環境は貴重であると思います。	—
54	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	今でも充分活用されていると思います。	—
55	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	パイプオルガンのあるホールは格式・価値が高く、中四国地方で唯一パイプオルガン付きの公共ホールを保有している松江市民の文化水準の高さを誇るものであるのに、撤去するならば、自ら進んでその水準を落とすようなもので、撤去の選択肢が出てくる事自体が非常に残念。パイプオルガンのないホールは他のどのホールと変わりはなく、プラバホールの存在意義すらなくなる。撤去してから後悔しても、後から再び設置する事は出来ない。	<ul style="list-style-type: none"> ■ プラバホールの認知度を国内外に広める為にも、パイプオルガンの街・松江を国内外へ発信 ・パイプオルガン国際(あるいは国内)コンクールをプラバホールで開催 ・講師として国外から著名なパイプオルガン奏者を招き、国内外から受講生・聴講生を募集し、講習会を開催 ・国内外のパイプオルガン奏者を招き、シリーズで定期演奏会を行う。 ■ 未来のある子供達への情操教育、市民の為のプラバホール ・パイプオルガンをより身近に感じてもらう為にも、引き続き専属奏者によるオルガン講座を定期的実施 ・『ラ・フォル・ジュルネ 熱狂の日』音楽祭in松江,あるいはそれをモデルとする音楽祭の開催 → 一流の演奏を低料金で提供し、クラシック音楽の新しい聴衆を開拓 ・子供達の情操教育の為にも幼児、小・中学生対象のパイプオルガン体験教室をプラバホールで行う。 ・平日の短めのランチコンサート、ワンコイン・コンサート等
56	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	「パイプオルガンのある町」として松江市をアピールできるから	WEBでの情報発信を重点的に行った方が良いと思われます。 <input checked="" type="checkbox"/> 特にスマホ対応のHPやFacebook、twitter、Instagramでの発信はとても重要と思われます。 <input checked="" type="checkbox"/> 出来れば、英語他の言語での情報発信も併せて行くと、ホールの活性化が進むと思われます。 <input checked="" type="checkbox"/> 音楽は国境を越えます。 <input checked="" type="checkbox"/> 世界へ松江市を発信してください。
57	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	—	—
58	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	—	—

59	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	<p>オルガンを必要とする管弦楽曲はたくさん有り、これまで数々の共演をさせていただきました。また、プロオーケストラもプラバホールでオルガン協奏曲や「オルガン」交響曲も演奏しています。オルガンがあるからこそ演奏でき、鑑賞できる曲です。</p> <p>私は専属奏者の米山さんと一緒にさせていただいたことが多く、また、松居直美さんとも共演させていただく機会があり、私自身のモチベーションの向上につながっています。オルガンの音楽は、若い方のモチベーション、演奏技術の向上につながると考えます。</p> <p>プラバホールのストロングポイントは、オルガンがあることのみではなく、専属奏者がおられることで、子どもから大人まで楽しめ、かつ、クオリティの高い企画が次々と繰り出されていることだと思います。</p> <p>オルガンの活用：バッハのオルガン曲の定期的演奏会。</p>	—
60	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	—	—
61	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	—	—
62	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	市民はもとより、観光者にも解放する。	パイプオルガンを観光資源として活用する。
63	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	積極的に使ってください 使わなくらいなら 無償解放で誰にでも弾いてもらうべき 東大のオルガン同好会などもそのようにオルガンが愛されている 人口が少ないわけではない	設置することに満足して一度も利用させないなど悲しすぎる
64	パイプオルガンのオーバーホールを実施して引き続き活用した方が良い。	<p>松江ならではの音楽文化を創造していくために、さらなる活用を期待します。</p> <p>具体的には、これまで以上にオルガンに「1.市民が親しむ機会」「2.市民が参加する機会」、オルガンを活用して「3.市民が芸術性の高い音楽に触れる機会」を創出するために、活用していくことを提案します。</p> <p>1.については、市が設置するという共通の基盤を活かした「教育と音楽の融合による取り組み」が考えられます。今でも0歳から学童期まで様々なオルガン事業を実施されていますが、さらに次の世代へも広げるため、例えば、市立皆美が丘女子高に電子オルガンを設置しオルガンクラブを立ち上げてはどうでしょうか。その活動の中で、月1回でもホールでレッスンができる環境があれば、よりオルガンが身近になり、音楽文化に関わる人材の育成や、また、高校の特色にもなると思います。</p> <p>また、図書館との融合施設である利点を生かし、例えば平日の昼間に無料で入場できる定期的なランチタイムミニコンサートを実施するなど、図書館利用目的で訪れた方もオルガンとつながることができる機会をつくることも考えられます。</p> <p>2.については、公共施設であるため「市民参加」が重要と考えます。例えば、オルガンを学んだ市民などの力を借りて、上記のミニコンサート等で演奏してもらったらどうでしょうか。市民がオルガンに関わっている姿を身近にみることができれば、市民のためのオルガンという理解も深まります。さらに、自分も参加してみようというきっかけにもなり、市民参加の広がりも期待できると思います。しかし、個人所有ができない楽器という特性上、市民活動継続への支援として、練習環境づくり等は検討していく必要があります。</p> <p>最後に、3.では、オルガンを擁するホールの特徴を最大限に活かす、芸術性の高いオルガンコンサートを期待します。様々な取り組みで、オルガンに親しみ、関心が高まれば、本格的な音に触れてみたいという市民も増えてくると思います。</p> <p>生涯を通し、多くの市民が音楽に親しみ、参加し、質の高い音楽に触れていくことができることが「松江ならではの音楽文化」であり、その文化力創造の「柱」として、オルガンのさらなる活用を望みます。</p>	今回のワークショップや意見募集を受けて、松江市における音楽文化振興においてオルガンをどう位置付けていくのかビジョン、また、それを進めていくための市の役割等について、示していただければと思います。

65	パイプオルガンを撤去して新たなホールの活用策を検討した方が良い。	パイプオルガン自体はよいものだと思うが、年間の利用頻度は少ないと思う。その割に維持費、オーバーホール費用は莫大になるのではないと思う。費用の事は何もHPに記載されていなかった。何もパイプオルガンにこだわる必要はないと思う。やめたらいと思う。パイプオルガンありきな進め方はやめた方がいいと思う。松江市にとって必要不可欠なものではないと思う。 ほかの事に税金をつかった方がいいと思う。	—
----	----------------------------------	---	---